

「連合2018平和行動 in 沖縄」派遣団報告

語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和を実現しよう！

～平和オキナワ集會に、全国から1,200人が結集～



集會で挨拶する、連合 神津里季生 会長

連合は、沖縄戦から73年目となる慰霊の日にあわせて、6月23日・24日の2日間、「2018平和行動 in 沖縄」を開催した。連合福島からは、派遣団として白河地区連合の丸山副議長を団長に9名が参加した。23日には「浦添市民体育館」にて「平和オキナワ集會」が行われ、冒頭の基調講演では、沖縄県出身のフリージャーナリストの屋良朝博氏からご自身の体験も踏まえて、基地問題をはじめとした戦後の沖縄の取り巻く状況について講演があった。

講演の中では、米軍基地問題も自ら体験しないと冷静な判断ができない・・・と、体験・体感することが大切と訴えられた。平和式典では主催者の神津会長から「米軍基地問題は、沖縄県だけの問題ではなく、日本全体の問題である。近年では度重なる部品落下事故が発生した際に米軍が否定したことで、一部では沖縄への誹謗中傷があった。この原因は沖縄、米軍基地への絶対的な認識不足がある。政府には米国に対し毅然とした態度で、徹底した安全管理、再発防止策がなされるように連合としても政府に求めていく。また、本集會で学習した内容を皆さんには職場に持ち帰り運動の展開をお願いしたい」と挨拶があった。式典の最後には在日米軍の整理・縮小と日米地位協定の抜本見直しを政府に要求する「沖縄からの平和アピール」を採択し、平和運動の推進を誓い、1日目が終了した。

2日目は連合福島のピース・フィールドウォークとして、沖縄戦の歴史遺産である「嘉数高台公園」、「海軍司令部壕」や基地問題の理解を深めるために「嘉手納基地」、「普天間基地」を視察し、最後に「ひめゆりの塔」、「平和記念公園」を訪れ、沖縄戦の犠牲者への慰霊を行った。2日間を通し沖縄戦の凄惨さや、未だ解決していない基地問題等を学習し、改めて平和の尊さを再認識し、恒久平和の願いを強くし帰路についた。



連合福島 沖縄平和行動派遣団の皆さん



「ひめゆりの塔」(上)に、連合福島・派遣団を代表して丸山団長が献花しました



上が、住宅街に隣接している米軍「普天間基地」、下が「嘉手納基地」

